

台湾留学を通して

法文学部人文学科多元地域文化コース4年 田上碧



私は2022年9月から2023年1月まで、台湾の淡水というところにある淡江大学に留学していました。淡水は台北からMRTで約1時間ほどで、夕日が綺麗な場所としてとても有名です。現地での留学中は、台湾の方々のあたたかさに触れ、台湾の文化や歴史、国民性等を学ぶことができました。今回は台湾での生活に加え、私は「ジェンダー」や「性的マイノリティ」についても注目して過ごしていたため、それらについても紹介していきたいと思います。

台湾について

○位置
沖縄の南西、中国大陸の福建省の対岸にあります。

○鹿児島からの距離
飛行機で約2時間ほど！

○国土
36,200km² 大体九州と同じくらいです。

○気候
亜熱帯～熱帯に属するため夏はとても暑く、雨が多い地域です。



寮生活について

留学生は淡江大学の1年生と同じ5階にみんな入ります。4人部屋で、私の場合は同じ日本人留学生1人と台湾人2人でした。毎日一緒に過ごすことで、台湾の方の文化をより深く知ることができました！



ちなみに、洗濯は地下1階なので、5階からの上り下りは非常に辛かったです。良い運動になりました。他にも地下には食堂があるので、小腹がすいたときも気軽に行けるのでとても便利です。



台湾で感じたジェンダー平等と性的マイノリティへのまなざし

2022年ジェンダーギャップ指数

日本：146か国中116位
分野別でみると...

非常に低い→

経済・政治

ジェンダー不平等指数について台湾は国連加盟国ではないため、算出方式に台湾を当てはめると...

2021年は0.036 (0に近いほどジェンダー平等)

アジアでは**トップ**

世界では**6位から9位レベル**

2021年主要国家GIIと排名



また、台湾ではジェンダー平等教育法(2004)が可決され、小学校からジェンダー平等教育が取り入れられており、2019年には同性婚が認められ、「性」に関する教育、環境が日本とは異なると感じました。

高雄でのプライドパレードに参加して



プライドパレードでは、様々なセクシュアリティを持った人が参加しており、厳格な雰囲気というより、参加者は生き生きとした表情でレインボーフラッグを持って、明るく、非常に活気がありました。LGBTQ+の当事者である人は、社会のマイノリティとして考えられていますが、このプライドパレードにおいてこんなにも多くの当事者、またアライの人々が集まり声をあげていることに改めて様々な感情がこみ上げました。

台湾の食文化について



台湾では、3食外食も一般的です。実際、寮には各階に一つキッチンがありましたが、あまり使用されていませんでした。台湾は夜市が有名ですが、台湾の方も行く機会は、思ってるより多くないようで、学生は普段、学校周辺の屋台や、レストランで食事をしていました。

台湾の食事は味が濃いイメージがありますが、私はそこまで日本と味つけは変わらないものが多いかなと思いました。たまに独特だと感じる風味や、香辛料が入っているとびっくりしましたが、段々どのような味がするかは想像できてくるので、選べば問題ありません！また、学校の周辺にはパスタ屋さんや、カレー屋さんも多いので、もし台湾の食事が合わないと感じたら、コンビニのご飯や周囲のレストランを調べてみるといいと思います！！



受講した授業について

○(初級/中級/進階)華語
(聽說/寫作/閱讀)

淡江大学では、留学生向けに中国語の授業が開講されています！授業を受ける前にテストを受け、レベル分けされますが、初回を受けた後に自分自身で変更もできるので安心です。予習、課題もありますが、私は台湾人の友人に分らないところは聞いていました。



○博物館導覽

この授業では主に、台湾の博物館や芸術品について学ぶ授業で、実際に念願の故宮博物院や淡水にある紅樹林の生態を観察にしに行くことができ、記憶に残る授業でした。

○日語會話(4)

日本語学科の4年生が受講する日本語会話の授業で、単位にはなりません。先生に聴講としての参加を依頼すると喜んで迎え入れてくださいました。日本の文化を振り返る機会にもなりますし、なにより台湾人の友人ができるチャンスなのでおすすめです！



まとめ

私がこの台湾留学を通じて、最も深く感じたことは人と人との縁です。台湾人の方は非常にあたたかく、道に迷っているとすぐに声をかけてくださり、お店でも留学生だと分かると、サービスをしてくださったり、話しかけてくださったりしました。そして、大学生活においても、台湾人の友人がまた他の友人を紹介してくれることで、コミュニティが広がり、たくさんの記憶に残る思い出をつくることができました。また、台湾留学の目的の一つとしてあったのは、台湾でのジェンダー規範や文化に根づく考え方、マイノリティへのまなざしに触れ、台湾独自の社会背景に目を向けながら、日台の比較を試みることでしたが、実際、普段の生活を通して、日本よりもセクシュアリティに比較的オープンな雰囲気があるように感じ、身近に、仲の良い友人に、当事者はいることが認識できる環境でした。日本においては、社会的にマイノリティ側にいる当事者の存在は目には見えない場合が多いかもしれませんが、しかし、周りには確かに存在することを「想像」して日々のマイクロアグレッションに気づくことが、マジョリティ側の特権を持つものが行うこととして、特に重要なのではないかと今回の留学を通して改めて強く思いました。